

2022年2月

学校法人 東放学園  
東放学園高等専修学校 殿

## 2021年度 学校関係者評価報告書

東放学園高等専修学校  
学校関係者評価委員会

### 1. 学校関係者評価委員

#### 【関連業界関係者】

中島 史雄 漫画家 元・本校講師

#### 【卒業生】

長谷川 唯 声優・女優 ホーリーピーク所属

#### 【教育、学校運営に関し知見を有する者】

工藤 優彦 学校法人高宮学園 代々木ゼミナール 教育総合研究所 シニアコンサルタント

### 2. 事務局

寫田 慎	東放学園高等専修学校 校長
清水 大樹	東放学園高等専修学校 副校長 教務教育部 部長
田辺 裕章	教務教育部 部長
橋本 光一	学務管理部 部長
米倉 寿雄	入学広報部 部長
山田 未来	教務教育部 主任
小野 喜彦	学務管理部 主任(事務担当)
佐藤 ひとみ	入学広報部 主任

### 3. 学校関係者評価委員会の開催状況

2021年11月1日～2022年1月31日 メール・郵便等による書面会議にて

### 4. 学校関係者評価結果

※別紙のとおり

※別紙

4. 学校関係者評価結果

【評定の内容】

- 4 : 適切に対応している。課題の発見に積極的で、今後更に向上させるための意欲がある。
- 3 : ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
- 2 : 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
- 1 : 全く対応しておらず不適切である。学校の方針から見直す必要がある。

I. 重点目標について

重点目標 1「渉外活動の強化、入学者40名以上の確保」について

総 評	評定
<p>コロナ禍にもかかわらず入学者40名以上を確保できたのは対策が適切であったと評価できます。ホームページもよく考えられ明るく洗練されています。保護者目線で見ますと、「保護者の皆様へ」では詳細にかかれています。学校法人であり高等学校卒業と同等の資格を得られることがホームページのもっと目立つところに来てほしいかと思えます。</p> <p>コロナ禍による影響で従来の広報活動がかなわなかった中で目標の入学者数に到達しているのは、オンライン説明会や個別相談、広告活動等を強化したことによる対策が適切であったことがわかる。</p> <p>生徒募集に向けた渉外活動については、コロナ禍で行動が制限された中、努力が見られる。入学検討者との直接の接触が難しい状況においては、多くのチャンネルを介した情報発信が重要となり、各メディアの特性を生かすとともに、口頭による追加説明が必要とならない情報の質が必要となる。その点で、ホームページの現状は見直す点が多いと思われる。また、入学者40名以上が目標として妥当かどうかとも再考が必要か。</p>	3

重点目標 2「カリキュラムデザインの再構築」について

総 評	評定
<p>オンラインでの授業はコロナ禍にもかかわらず求められてくると思います。より効率的な運用を期待します。全科目定期考査は程よい緊張感を生徒に持ってもらい意義もあります。専門科目の内容については実施する講師と学園の意図が齟齬(そご)なきよう、基準の明確化をもって細かなコミュニケーションを取って実行することを望みます。</p> <p>定期考査で生徒自身の問題や課題を評価として可視化することで、自分自身を見つめなおすきっかけとなるため、より生徒たちが学びやすく、育ちやすい環境だと思える。</p> <p>カリキュラムの構築においては、「目標の設定」「達成課題の特定」「解決方法の検討」「結果の評価」等のステップが重要となるが、特に目標や課題の焦点化とそれに見合った評価方法の採用が改善サイクルの成果を左右する。コロナ禍による指導環境の変化は、この焦点化を促すきっかけとなった。ICTの活用は本校の教育の性格から見て、他校種に先行しているべきであったと考えられる。さらなる活用拡大が望まれる。</p>	3

重点目標 3「卒業率90%以上、目的を持った卒業」について

総 評	評定
<p>卒業、進級への意思の弱い生徒に対して教務側は粘り強く指導されていると思います。生徒それぞれの事情もあり対処は難しいですが、できるだけ複数の教員とカウンセラーで対応に当たられればまた生徒の違う面が見えるかもしれません。</p> <p>在校生の過半数が悩みを抱えている可能性が非常に高く、人間関係のトラブルも少なくはないと思う。わずかな問題であっても見逃さず、生徒それぞれに適切な対応ができるよう、日々共に過ごす生徒たちとの関わり方を考え、メンタルケアを積極的に行う機会を増やすことが望まれる。</p> <p>「卒業率90%以上」の目標未達と「進路決定率90%以上」目標達成との関係が不明瞭。数値目標は明確に定義する必要がある。数値は有効な指標であるが、教育においては質をともなった数値でなければ教育の改善や生徒募集につながらない。高等課程の年代では具体的な進路を決めるのが難しい生徒も多いと思われる。その際に重要なことは「進路意識」や「進路の考え方」をどれだけ高められるかではないだろうか。</p>	3

## II. 評価項目別取組状況について

### 基準1 教育理念・目的・育成人材像

総 評	評定
<p>アート専門分野と高校必須科目を同時に学ぶことは学園の特色で大きなアドバンスです。強くアピールできます。自己成長のための授業はもちろんですが、専門分野の実務（請求書の書き方、著作権の問題など）業界の変化に対応した新しい表現法（縦スクロールまんがのコマ割り、など）の短期集中講座があればいいと思います。</p> <p>理念はアドバイザーと生徒をつなぐ一つの方法として、非常に重要だと考えられるため、常に共有し、変化しやすいエンターテインメント界を乗り越えていくための共通認識をこれからも高めていくことが望ましい。</p> <p>生徒だけではなく、現役の講師陣にも理念を周知させることも生徒の意識を高める一環になるのではと推測します。</p> <p>エンターテインメントを目指す若者の発掘と育成が本校の設立意図と考えられるが、早期教育のメリットは「早く」とともに「しっかりと」という面にもあると思われる。業界の変化の激しさは「早く」の面に目を向けがちであるが、変化が激しいほど変化に流されない「しっかりと」した土台づくりが重要になる。学校の理念はこの面を表すものであり、その上に時代で変わる具体的な目標と人材像が構想されるのではないだろうか。両者のバランスが大切。</p>	3

### 基準2 学校運営

総 評	評定
<p>運営方針、授業計画は教職員に周知され進捗の検証も行われています。教職員の方の高いモチベーション維持のために評価基準の検証、さらなる最適化を期待します。</p> <p>運営方針を教職員全体で統一した意識を持つことは生徒たちからの信頼を得やすいのではないかと感じられ、とても良い印象を受けた。情報システムについては、情報漏洩対策としてデビュー系情報のセキュリティをより強化し、システムだけではなく生徒自身にも情報の扱い方の大切さを周知させる必要がある。</p> <p>学校運営の円滑化と効率化に向けて方針・計画・組織・制度等の整備に努めている。学校運営は構成メンバーや社会の変化とともに変わっていくものであるから、唯一のゴールを目指すのではなく、環境の変化を敏感に感じ取るセンサーと、変化に柔軟に対応できる組織づくりが重要になる。</p>	3

### 基準3 教育活動

総 評	評定
<p>デビュー、進学、就職と多様な生徒の進路に対応できる体制と、生徒の選択で組まれるカリキュラムは素晴らしい。生徒の自主性育成に有効と思われます。アート系授業では生徒のレベル、意欲の差が大きく対応、評価が難しい。講師会などでの学園と講師間の連携はますます必要と思います。意欲、レベルの低い生徒のフォローも大切ですが、よりレベルの高い生徒を伸ばす授業もあっていいかもしれません。</p> <p>生徒の自主性を尊重し、心の赴くままに授業を選択し経験をえられることは、本校の最大の魅力だと思う。</p> <p>着実な改善の歩みが見られるが、その一方で入学者が多様化しているとも指摘されていて、入学者や保護者のニーズの変化をどうとらえるかで教育活動の在り方は変わってくる。また、具体的な活動については、授業アンケートや進路実績の解釈と活用の仕方次第で改善の可能性も変わる。今後はエンターテインメント以外の進路を希望する生徒の指導をどう一体化し、本校ならではの利点をどう打ち出せるかが課題となりそうである。</p>	4

### 基準4 学修成果

総 評	評定
<p>各方面で活躍される卒業生の公表が諸事情でできないケースがあるのは残念です。可能な限り卒業生、在校生の活動状況をホームページ等で公表することは新入生確保にも在校生のモチベーションアップにもつながります。そのため、既に実行されていますが卒業生への近況の聞き取りなど、定期的に活動を把握することが重要と思います。</p> <p>授業が多様であるがゆえに進路がゆらぎやすい生徒もいる可能性があるため、今後も定期的に生徒と話し合い、リアルタイムの心境をヒアリングしていく必要がある。また、在校生と卒業生が対話できる機会を増やし現場の声を聞かせるなど、大きなヒントになる機会を増やすことも重要なのではと考える。</p> <p>資格については、取得までに時間がかかることはあるが自分の夢のプラスアルファになることに変わりはなく、特に言語、文章検定に関しては将来的に大きな武器となるため、その点を積極的に生徒たちへ伝えていくと受講希望者が増えるのではないかと。</p> <p>多様な進路希望者が存在する中で高い決定率を維持していることは評価される。進路意識の育成については、進路に特化した「講座」「指導」に頼るのではなく、日頃の学習指導と一体化することが重要である。それは学ぶことが進路を考える機会となり、同時に進路を実現するプロセスとなるような学習指導を実現することで可能となる。本校の性格を考慮すると、他校種の学校では難しいこの課題実現の可能性を感じる。</p>	3

基準5 学生支援

総 評	評定
<p>一般企業への就職、異分野での進学希望者は増える傾向にあるようです。入試対策として普通科目、一般教養科目の充実が図られているのと同時に就職、進学のガイダンスが一年次より、また二年次に面接実習があるのは評価できます。生徒の健康に関して保健室に専門教職員の常駐はありませんので、提携学外医との連携が円滑に行われる必要があります。</p> <p>在校生だけではなく、卒業生にも支援体制が整っており、学校全体を通して生徒たちに親身に寄り添っていることがわかる。三者面談を行うなど保護者への情報連携やメンタルケアも重点的に考えられており、素晴らしいと思う。</p> <p>多様なスタッフ・システムによる支援体制の充実は評価される。進路希望の多様化対策は進路ごとの対策以前に、基礎力の充実を図ることが大切。通信制高校との差別化に関しては、通学型の教育機関だからこそ可能な「居場所」「つながり」「集団の中で育つ」といった観点からの施策とアピールが重要となるのではないだろうか。経済的支援は、今後ますますその重要性が増すと考えられる。</p>	4

基準6 教育環境

総 評	評定
<p>学内の施設は細かく点検、補修されて、業者による清掃も十分に清潔感が保たれています。防犯カメラ設置、警備員の常駐は評価できます。難しいですが部外者の侵入を防ぐ確実なシステムがあればと思います。避難訓練が例年行われるのは評価できます。スケジュール的に無理かもしれませんが後期でなく前期実施の方が新一年生にとって早く体験でき有効と思います。</p> <p>学校の特色上共有スペースが多いため、感染症対策を徹底していることが見受けられる。学校行事は自分自身を自らの力で実力をアピールができる貴重な機会のため、生徒ひとりひとりが主人公であることをがしっかりと意識させ、行事参加によるメリットを掲示していく必要がある。</p> <p>施設・設備、防災・安全管理等については大きな問題はないと思われる。ただし、設備も計画もあるだけでは有事に対応できるわけではなく、実行できる状態にしていく努力が大切。定期的に点検・確認、予行演習等を一部のスタッフだけではなく、全員で(交代制でも可)経験しておくことがよい。インターンシップ等社会的な文脈で学ぶ機会は重要であるから、地域や大学との連携も模索する価値はあると思われる。</p>	3

基準7 学生の募集と受入れ

総 評	評定
<p>高等専修学校自体が社会的に認知度が低いのが問題です。多様な進路、自主性の確立、細かな指導、素晴らしい特色がある学園なのに歯がゆい思いです。体験入学、出張授業、地域貢献を通じて学園自体をアピールしていただきたいと思います。</p> <p>学校への直接的信頼を得ることも大切だが、今ではインターネットが主流となり学生たちも多く利用していることから、より細やかな教育活動を伝えるために様々なSNSを活用するなど、卒業生、現役講師に協力を仰ぐ等、学校の良さを多く発信してほしい。</p> <p>受け入れについては問題ないと思われる。課題はやはり募集。一般の高校(通信制を含む)への進学圧力は非常に高いので、同じような募集戦略では不十分。募集数も限られているので、過去の入学者の入学経路を参考に、PR方法やPR経路を絞り込んで集中的に募集した方が効果的ではないか。認知度向上よりも一般の高校との差別化をどれだけアピールできるかが重要と思われる。募集目標については、再考が必要。</p>	3

基準8 財務

総 評	評定
<p>20年度は基本金組入前当年度収支差額、経常収支差額ともにプラス、収支バランスは良好です。財務情報は学園のホームページに適切に公開されています。</p> <p>学生数に見合う支出額を策定していること等、全体的にバランスよく考えられている。</p> <p>評価の対象となっている財務諸表は「学園全体」のものに限られていると思われるが、高等課程の存続を図るのであれば、単独の分析も必要ではないか。その上で、学園内への進学実績も考慮して予算額を決定する方が、高等課程の存在理由も明確となり、スタッフの自覚も高まると思われる。</p>	4

基準9 法令等の遵守

総 評	評定
<p>コンプライアスに関しては教職員、生徒に周知徹底が図られています。個人情報保護のセキュリティに関しても常にアップグレードする意識が高い。客観的に学園自身を評価する体制があり情報も一般公開しているのは評価できます。</p> <p>アーツや学校行事での発表だけではなく、授業を公開することに対してはとても良い企画だと思う。また、保護者以外の人物に見られているというのは生徒への意識向上になるほか、良い刺激となる。</p> <p>現段階でもセキュリティに関しては重視化されているが、第三者を入れる場合はセキュリティをより強化し、体制を整えた上での実施が望まれる。</p> <p>法令・基準の遵守は当然のこととして、デジタル化の急速な進展にもなあって、情報の扱いについては細心の注意が必要となっている。また、ハラスメント(いじめ、嫌がらせを含む)については個々のマニュアルによる対応ではなく、不測の事態にも速やかに対応できる姿勢が必要となっている。学校評価については、もっと生徒や保護者の評価を加味する必要がある。直接の利害関係者の声こそが、改善の指針となる。</p>	4

基準10 社会貢献・地域貢献

総 評	評定
<p>エンタメ系に強い学園の特性を生かした地域貢献が期待されます。出張授業は学園の認知にも有効です。</p> <p>芸術の仕事は技術職ではあるが、コミュニケーション能力や、人の感情を揺さぶることのできる人間力、精神力なども同時に必要されているため、積極的にボランティア活動等で経験を積むことも大事とされる。活動を通し貢献をすることで人との関わり合いや心のふれあい方を学ぶことで人間力を高めることができ、同時に学校の知名度をあげるきっかけになるのでは。</p> <p>社会貢献・地域貢献は奉仕という面よりも、教育という面で重要である。学校での学びが実社会で生かされない理由の一つとして、学びの動機や内容が社会や地域という実生活の場面と乖離していることがあげられる。社会貢献・地域貢献、あるいはボランティア活動を通して、生徒が学んでいることが実生活で役立つ、生かされるという実感をもつことが、学校での学びを促す要因となる。</p>	3

所感

<p>必ずしも業界へのステップアップとして入学される生徒さんばかりではないかと思えます。興味があるから面白そうだから居心地よさそうだからとか言う理由で入学された生徒さんにもアートの自由さ、楽しさを分かち合える学園であり続けることを期待いたします。</p> <p>個性的な生徒が多いことから、学校側での学ぶための環境づくり、各所との連携体制など、より強いサポートが必要となっていると思うが、それぞれの取り組み状況が生徒たちの成長にあわせた内容となっており、体現的だけではなくすべて考えられた中で具体的に示されているのがとても素晴らしいと感じたため、引き続き夢を追う生徒たちがのびのびと学び、立派に巣立ってようなを学校を目指して行ってほしい。</p> <p>教員、職員、スタッフそれぞれが学校運営に対して真面目に取り組んでいます。生徒も明るく、礼儀正しい振る舞いで好感が持てます。中学生の進路が多様化している現在、その選択肢となれるかどうかは、本校の特徴をどのように定位し、どのように伝えていけるかにかかってくる。本校には他校にはないいくつものメリットがあり、可能性を感じられます。ただし、ある意味特殊な志向を持った生徒が対象となるので、そのような生徒に確かに届くメッセージとメディアが重要になるのではないのでしょうか。</p> <p>指摘事項や評価は教職員から見れば現実は違うといったものもあると思いますが、「外からはそのように見える」ということです。そこには貴重な改善ポイントが潜んでいる可能性があります。外からはそのように見える現場・現実を正しく伝えるためにはどうしたらよいかを包括的に見直すことが必要ではないのでしょうか。</p> <p>今後の生徒募集や学校運営に活かしていただくことを期待します。</p>
---